

開催日時	平成 26 年 10 月 23 日（木） 18：00～19：30
開催場所	阿寒町公民館（視聴覚室）
参加人数	9 人
出席議員	<p>月田光明副議長</p> <p>高橋一彦議員（議会運営委員長）</p> <p>鶴間秀典議員（総務文教常任委員）</p> <p>松永征明議員（経済建設常任委員）</p> <p>松橋尚文議員（民生福祉常任副委員長）</p> <p>土岐政人議員（石炭対策特別委員長）</p> <p>石川明美議員（議会広報特別委員）</p>
質疑応答の内容	<p>問：阿寒インターチェンジは、国道との交差点が危険な形になろうとしている。その上、高速道路の影響から国道を複雑な線形に変えたことで、事故が多く起きており、ここにインターチェンジが繋がれば、ますます事故が増えると思う。議会ではどのように捉えているか。</p> <p>松永：今、話を聞いて初めて危険性が分かったので、議会全体でも取り上げながら、改善について議論していきたい。</p> <p>問：人口減少問題について、合併以降、仕事がないため、若い人が定着せず、少子化が進むという悪循環が繰り返されている。加工や販売を全部含めた6次産業をおこしていくことで若い人の働き口が増えていくと思う。議会として、関連団体に目を向け、意見を拾って行政にぶつけていくということをしなければ、人口減少に歯止めはかからないのではないか。</p> <p>鶴間：人口減少対策はどういったものがあるかとの議会質問に対し、市長から農業等の一次産業を活用して雇用を創出することが人口減少対策になるという答弁があったが、実際に何をするのかという具体的な答弁は無かった。補足だが、行政では現在、涼しい釧路を利用した長期滞在を、民間と一緒に協議会も作って進めているが、この中で今後、定住を前面に打ち出して進めていきたいとの話があった。</p> <p>松永：6次産業の推進で若い人の働き手が増えるというのは、その通りであると考えている。これまでも地域のブランド化の議論の</p>

中で、行政側と農業や漁業の加工品を作り、全国に発信すべきではないかという話をしているが、9月定例会では、市から地域ブランド推進委員会との連携を図りながら、今後、早急に進めていきたいとの答弁があった。

問：人口減少対策の一つに子育て支援があると思うが、特に阿寒町に対する子育て支援の話し合いはあったか。

松橋：過去の委員会で、阿寒では個人の登録者が子どもを預かる事業があったが、預かる人がいなくなったことで、現在は乳幼児の預け先がなく、同様のシステムを作ってほしいという議論があった。

問：新図書館を北大通に移設して、人が集まるのか疑問に思う。市内には各コミュニティセンターに3カ所の分館があるが、通常の利用なら十分そこで間に合うのではないか。

鶴間：現在、市側から道銀ビルの間借り案が提案され、議論している。現在の市立図書館の蔵書を約1.5倍に増やすためのスペースの確保や図書館を拠点に分館の蔵書を入れ替えていく機能、郷土資料や歴史的なものを保存する文学館を併設するという機能を含めて、北大通に建てることで中心市街地を活性化しようというのが行政側からの提案だった。この案のほかに、PFIを利用する案、駅西地区の市有地に建てる案、今の図書館を補強する案などが議員から出されており、現在、市で試算しているところである。

高橋：色々なパターンが出てきた中で、いかに市民の負担を軽減するか、議会としてどうするかという話がこれから出てくると思う。

問：耐震岸壁ができ、その近辺も整備され、そこに大型船が出入りして海外や市外の人たちが来るのは良いことだと思っていたが、予想以上に大きな船で、水深が足りずに一部は西港の方へ回っているという報道があった。解決するためには、さらに水深を深くしなければならないが、そうすると耐震岸壁もやり直しになるのか。

松永：耐震岸壁に入港可能な船は耐震岸壁に、それよりも大きな

船は西港にというすみ分けをしながら、今年度はクルーズ客船が25回入港している。

高橋：耐震岸壁は旅客船のために作ったわけではなく、災害時に海からの貨物を受け入れるために作られたものであり、平常時の活用として旅客船をMOOの近くの耐震岸壁に入港させている。

問：釧路コールマインは太平洋炭鉱を引き継いだ後、経営努力し、地元の雇用にもつながっていることは間違いないと思うが、経営内容を見ると、かなりの割合を研修事業が占めている。採炭で収益を上げていくのが本来の姿ではないか。

土岐：釧路コールマインの研修事業に対して、国から22億円を超えるお金が出ている。その内のいくらかに坑内使用料という、コールマインへの補助金的な位置づけで出されているものがあり、採算がなんとか成り立っているというのが実際のところである。釧路コールマインの努力で、こうしたものが無くても自立してやっていけるようになるのが理想ではあるが、現状ではそこまで至っていない。国のエネルギー政策に位置づけてもらい28年度以降の事業の発展的継続に向けて、国への要請行動を続けている。

高橋：坑内掘りにおいて、ガス爆発等、保安上のいろいろな問題がある中で、日本の技術は世界でもトップクラスである。釧路コールマインの研修事業でベトナム、中国の死亡事故が減っているという成果があり、研修国からもそうした技術が欲しいということで進められている。

問：庶路ダムは工業用水を送るために作ったが、釧路工業団地の一部がメガソーラーとなっており、工業用水を使用していない。本当にダムは必要だったのかと疑問に思うが、それに関する議論はあったか。

月田：釧路工業団地は企業を誘致し、庶路ダムから工業用水を供給するという計画である。市と白糠町はそれぞれ企業誘致に取り組んできたが、市側の土地は完売したものの、白糠町側で、なかなか誘致の成果が上がらず、土地の有効利用を急ぎたいと

	<p>ということから、白糠町の判断でメガソーラー発電所の誘致に至った。現在、市の水道水よりも水質が良いことを利用し、白糠町として水道水としての活用ができないかという議論が進んでいるということをご紹介したい。</p> <p>松橋：庶路ダムには、工業用水のほかに治水の役割もある。これまで、庶路川は大雨が降ると水位が上がって氾濫する可能性があるため、大雨のたびにポンプを設置していたが、庶路ダム完成後はその必要が無くなったという話も聞いている。</p> <p>問：原発の再稼働に多くの人が反対しているが、まずは安全に稼働できる原発は再稼働して、中長期的に減らしていくことを考えなければいけないと思う。原発をやめて、割高な自然エネルギー発電が増えれば、コストが電気料金に跳ね返ってくるのは当然である。その上で将来の電気をどう賄っていくのかという現実的な議論を、議会としてもしていく必要があるのではないか。</p> <p>高橋：全会派共通の認識の中で、電気料金値上げに関する個人や企業への影響、また、一方的な値上げではなく、北電に企業努力をしてもらいたいという話も含めて、意見書を出した。風力やソーラーでの発電は費用や効率の面で問題が残り、一概にはいいとは言えないと考える。</p>
<p>議会への 意見・要望</p>	<p>要望：阿寒インターチェンジの近くに釧路へ向かって橋が架かるが、そうになるとますます見通しが悪くなる。信号も設置しないという話も聞いており、さらに危険になると思うので、信号を設置するよう、公安委員会へ申し入れしようと思っている。実態を議会でも把握してほしい。</p> <p>問：釧路市議会の広報紙はあっさりしすぎているのではないかと。もっと紙面を増やした方が、市民は議会を理解してくれるのではないかと。</p> <p>松橋：ご指摘の通り、4面立てということで紙面に限りがある。特に議員の一般質問では、いくつか項目がある中で、一つの項目しか載せられないということがある。予算の関係上、現在、ページを増やすことはできない状況にあるが、その中でどうし</p>

	<p>ていけるか委員会で考えていきたい。</p> <p>問：阿寒インターチェンジの整備に関し、高速道路をできるだけ直角に繋げなければならない、国道が今まで以上に急なS字カーブとなり、加えてその箇所は以前から路面凍結しやすい上に、路肩の草が伸び、鹿の通り道であることから非常に危険である。今後、国道の危険防止と維持管理が重要になるので、議会として開発局へ要望して、今まで以上に取り組んでほしい。</p> <p>松永：今いただいた意見を経済建設常任委員会の中で議論していきたい。</p> <p>要望：先ほどの釧路コールマインに関する質問への答弁は、肝心なことを言わないので分かりづらい。なぜ国内炭がだめになったかという、海外炭との価格差である。今のコールマインにそこを求めても無理であり、今の研修事業と合わせてやっているから続いているという答弁の方が分かりやすかったと思う。</p> <p>要望：今、道内の火力発電所はほとんど老朽化しているが、CO₂を何とかしようと国際的に言われている中で、原発をやめれば安定的に発電できるのは火力発電だけになる。そういう部分も含めて、良い案を出してほしい。</p>
市への 意見・要望	<p>要望：人口減少対策について、国では地域創生に力を入れているが、黙って国がやってくるのを見ているのではなく、地域から行動していく必要があると思う。</p> <p>要望：阿寒インターチェンジに関連して、国道、道道につながる市道にインターチェンジへ誘導するような標識の整備が必要だと思う。</p> <p>要望：緑化整備について、数年前は樹木や低木の剪定がされていたが、予算の関係もあってかほとんど手つかずになっている。子どもたちが幼稚園や小学校に出入りするときに危ない場所があるので、剪定も交通安全上、非常に重要になってくると思う。</p> <p>要望：阿寒町では幼児が屋内で遊べる場所が非常に限られている。阿寒町子ども交流広場の先生に聞くと、施設を造っても保育士の人数が少なく、対応が難しいとのことであり、そうしたサービスが旧釧路市や阿寒湖にはあるのに阿寒町にないというのは</p>

	<p>さみしいものがある。</p> <p>松橋：今後の委員会の中で、また担当者ともいろいろな話をして、進めていきたいと思う。</p>
--	--